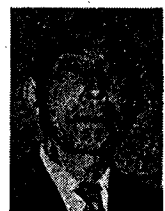


二の道三十年



農家の人で日誌を書く人は珍しいが、久沢の重助さんは五十年間引続いて日誌をかいてい

五十年日誌をかく 久沢の高瀬重助氏

この頃七十六才になり身体が衰弱して病臥しながらも日誌だけは相変わらず書き続けている。毛筆で書いたのもあれば鉛筆書き、ペン書き、兎も角ありあわせ

よい参考になる。最も重助さんは部落の区長、お宮の祓宜、道場坊主をはじめ、村議、森林組合、農協等に関係し、その間生涯の熱望として、伊勢久沢に通ずる道路の建設、久沢部落

盛り上る公民館活動

「地についた公民館活動」を推進しようと、各分館を設置してから二年目、災害のため一時停止した感もあつた公民館活動も、冬季に入り当村特有の社会教育シーズンになつて各分館共盛んな活動を始めた。



写真=東市布分館の農業研究会。



写真=西市布分館の謡曲発表会。



写真=大和分館雪上娯楽の一日、老人のリンゴ拾い。

今冬は積雪も少なく、災害復旧に早くから外に出て働く人達も多いので活動期間も短く、全体としては昨年と比べさびしい感じがしない。特にならぬが、総花的な活動も、今ではだんだん生活の中へ浸透するものが重点的になると言う新しい動

きあらわれて来たのは、今後の公民館活動の方向を示す一例と言えよう。然しまだ活動の中に入れない人が多いことはなればならぬ。特に冬季間慰安娯楽のない地方だけに、健全娯楽の普及と云うことは公民館活動が果さねばならぬ大きな役割と言えよう。

学芸会のあとさき

六年 長谷川郁子 私達の楽しみに待っていた学芸会も十七日でおわりました。私は花の円舞曲という遊戯をしました。

つぎに公民館活動の一こまを紹介いたします。

いずみ俳壇

風花句会二月例会抄 中出 芳乃 闇を割る夜響は固き咳をもて 新の山崩れ目立ちて春隣 鉦山の店た塩鮭の紅だけが 坑夫の手は握りしめ胸を張る 粗粒の顔赤児にうめて明日の夢 前川 正三



(写真は楽しい学芸会)

部落探訪

伊勢の石器 大昔、人類がまだ金属を使用しなかつた時代は石を色々な形にして道具にした。この時代を石器時代と言いますが、その石器の作り方に石を打ちかいて作った打製のもの、更に磨いて美しくした磨製のものがある。磨製の方が打製のものよりも作られた時代が新しいといわれています。 中伊勢の野村利経氏と若山美氏の家には次の石器があります。

これらは凡べて磨製でしかも実用面でも愛好家の垂涎のまゝとなつて、学問的にも貴重なものといわれています。 更に若山家には縄文土器の破片が二点ある。石皿は石鏡、石斧、石杵は材質が砂岩で、石刀、石斧は粘板岩である。これらの石器は大正十三年若山家の先代が、現在の家の前の畑に畑に畑に時発見されたものである。 また中伊勢の上流の台地や下伊勢の台地にも矢の根石が発見された。この様に伊勢には数千年以前から人の住んでいた事が推定されます。

立つ春の陽光惜しみて坑に入る 振り上げし寒きこぼしへ子の笑顔 木下 勲 鉦壁から天盤から影の叛乱 顔いつばいに泣く子を眼蓋の暗さ 福沢 龍峰 オーバー脱ぎ夫の列に道ゆする 番茶沸く峠見上げて煙夫戀う 胸衝きし雪の峠にシヤウ更ゆる 徒手の鉦山人追はる夫の白息に 鉦山の列暗くもぬき灯へ返す 雪崩来る兆し山腹黒く裂け 鉦山の店貼り出す熊の肉有り 鷹の眼に執し鉦石撰る坑夫の妻

野村家には楕円形の短径が六種、長径が九種、厚さが四種の舟形の石皿と、長さが二十三種、幅四種の石刀と合せて二点あります。 若山家には石皿は野村家とほぼ同じ大きさの一点と、長さ十五種、幅七種の石斧二点、更に三角柱で先の方が鉦の形になつたものが二点、これは折れていて先の方だけである。 又長さ十二種、幅五種のつるはしと唐鍬を兼ねたものが二点、持つ所が刀のつかに似た横と斜の模様のある刀身は直徑三種の先が両刃になつた長さ十三種の石刀、長さ十六種、先の方が六種、もとの方が八種の石杵が一点、先端が径四ミリ、もとの径一四四ミリある石鏡が一点、次に石鏡、これは矢の根石で始めは数多くあつたが、研究生に分与したり紛失したりして今は少数になつたが、これだけ多数の石器が若山家にあります。



おめでとう！ 一年生入学

カッ内 明 永瀬あつ子(静) 三島京子(秀夫) 保護者名 (秀夫) △池ヶ島 酒井那美子 山田久雄(定雄) 勢柄洋子(駒吉) (秀雄) 勢柄教子(三郎) △上半原 美濃島文字 島坂美保子(清松) 若山和己(孝一) (与左衛門) △若山良子(武雄) 三島開造(三忠) △伊勢 山下なつ子(藤雄) 丸山隆幸(馬太郎) 若山百合子(実) 帯刀幸村(善蔵) △長谷川 池尾美恵子(実作) 池尾邦夫(重雄) 見島隆之(茂) 池尾恵美子(林愛子) 吉川厚子(基) 三島俊己(藤市) △川合 新井一藤(悟) 古川繁吹(一) 山行(広司) 中村竜美(智盛) 中出忍直(一) 中島智章(力造) 梅本和比呂(一夫) 山内嘉則(喜之助) 山田勝己(隆一) 矢野裕史(一光) 藤田勝典(勇) 福田忠則(清) 福田孝則(清) 昆野吉尚(成男) 青木孝夫(総三) 荒川勇治(勇) 齋

沢一子(順平) 若山龍男(明) 根(光治) 岸美恵子(勘一) △野尻 若山栄(孫三) 宮原希代子(三郎) 永屋福見(辰右衛門) 宮沢進(由夫) 岩淵美代子(城) △米俵 池尾美恵子(実作) 池尾邦夫(重雄) 見島隆之(茂) 池尾恵美子(林愛子) 吉川厚子(基) 三島俊己(藤市) △川合 新井一藤(悟) 古川繁吹(一) 山行(広司) 中村竜美(智盛) 中出忍直(一) 中島智章(力造) 梅本和比呂(一夫) 山内嘉則(喜之助) 山田勝己(隆一) 矢野裕史(一光) 藤田勝典(勇) 福田忠則(清) 福田孝則(清) 昆野吉尚(成男) 青木孝夫(総三) 荒川勇治(勇) 齋

木島則幸(政雄) △下山 木下順子(茂樹) 島田鈴子(巖谷八重子(英太郎) 松山貞義(正一) 村下光治(操) 吉治和(利栄) 西裕治(久雄) △上大納 番屋喜久男(喜代志) 尾崎貞雄(末吉) 辻義範(善久) 河本秀雄 福田英子(正一) 藤沢慶子(正一) 庄野美津子(米作) 広田和子(義一郎) 高崎真弓(忠雄) 田中悦子(保) 原久美子(乙松) 山田和子(豊) △下大納 山内公一(茂) 合計一八八名、この外に適齡児童ももれている人は申出て下さい(教育委員会)

お料理の図書案内 家庭料理に関する図書、お料理入門(御厨良子著)の見本が公民館にあります。内容は仲々よい様です。入用の方は今月中に申込み下さい。 寸法 二一センチ×十五センチ 三九二頁、代金四五〇円

農夫症としての リウマチ神経痛 農家の人は四十才をすぎると肩がこる、腰が痛い(特に朝起きたときに痛い) 手足がしびれる、めまいがする、冷える等の苦痛を持つようになります。これには過

労や栄養不良等が影響しているのではないかと、このため農夫症といわれていますが、これ等は殆んどがリウマチ神経痛からくるように、農村では四人に一人あるといわれています。 最近ではこれ等の病気についての研究が相当すすんで、リウマチ神経痛は寒暑の差がはげしく湿気が多いこと、悪い姿勢でのけいげん労働、つまり中腰で長く仕事をしたり、荷をかついたりすること、白米食にかたよるビタミンBの不足などが原因で肩や腰の筋肉にシコリが出来て、そこを走っている血管や神経がおさえられ、こりや痛みが起つてくるわけです。 又風や、寒さにあうと血管が縮まり体の血の流れがとどまってしまうし、湿気もまた同じ意味から悪いわけですね。これにはどうしたらよいでしょうか、過労をさげること、労働の合理化即ち機械化が第一でしょう。 「小休み」を利用して腰を伸ばし、腰や肩をたく鍛練等をするのは、筋肉のしこりをほぐし、疲れた神経にいい影響を与えます。 又湿気や寒冷を防ぐために、田圃から上つたらすぐ洗濯した乾いたものに替えること、天気の良い日には家中の窓を充分に開放してフロン等も日に当て、湿気をなくして気持ちよく寝ましょう。 ビタミンBの不足には七分づきか麦御飯にして、農村の人でも一日三合〜三合半位で充分です。その他はおかずで野菜と共に油を多く使った豆類、干魚、こんぶ類等とバランスのとれた栄養で身体を守りましょう。(勝山保健所大野出張所)

お料理の図書案内 家庭料理に関する図書、お料理入門(御厨良子著)の見本が公民館にあります。内容は仲々よい様です。入用の方は今月中に申込み下さい。 寸法 二一センチ×十五センチ 三九二頁、代金四五〇円

